

1. 調査報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 2007年12月28日

【評価実施概要】

事業所番号	2170400671
法人名	(有) ジョイケアサービス
事業所名	グループホーム ジョイ
所在地 (電話番号)	〒501-6331 岐阜県羽島市堀津町横手1丁目36番地 (電話) 058-398-1431
評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会
所在地	岐阜県羽島市竹鼻町狐穴719-1
訪問調査日	平成19年12月22日(土)

【情報提供票より】(平成 19 年 12 月 1 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 2 月 1 日
ユニット数	1 ユニット
職員数	13
利用定員数計	9 人
常勤 7 人, 非常勤 6 人, 常勤換算	8.9 人

(2)建物概要

建物構造	木造 造り
	一部 2 階建ての 1 階 部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	有() 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	8 名	男性	3 名	女性	5 名
要介護1	2 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	0 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 83.9 歳	最低 64 歳	最高 100 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	丸の内クリニック ・ あおき歯科
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームジョイは、羽島市の南西部の住宅や工場が点在し、周りは公園や神社があつて静かな自然が残る地域である。一方で最近、大型ショッピングモールが近くに出来て、散歩や買い物等、利用者の活動範囲が大きくなっている。
 ホームは、月2回、職員全員参加(夜19:30~21:30)のミーティングを開催しており、常に介護計画及びサービスの向上に向けての話し合いをしている。また、介護記録等の書類やマニュアルの整備が行き届き、記録も職員が一見して分かるような工夫がある。
 施設内は、明るく清潔で、飾り付けなど家庭的な雰囲気を醸し出しており、日々の生活において、利用者と職員が一体となった活動をしており、いつも笑い声が絶えない。職員の支援は、優しくゆったり、ゆっくりとしていて、楽しい日々を暮らしていると、利用者が目を細めて語っていた。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価では、9項目に渡って改善点が指摘されていたが、施設長、管理者及び職員全員が、外部評価結果を協議し分析・検討した上で改善シートを作成している。できるものは即刻実施し、時間のかかるものはじっくりと取り組みをしており、指摘のあった9項目全てがクリアされている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>施設長や管理者は、地域密着型サービス制度になって評価の方法が変わったことを、職員に周知させている。また、職員が施設で行なっているサービスの実施について、取り組みの事実を確認し、これからどうすれば更に、サービスの質の向上に繋げていけるか等を、みんなで話し合い、施設長と管理者が職員の意見を取りまとめて自己評価表を作成している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、2ヶ月に1回、定期的で開催している。地元民生委員、地元の区長又は副区長、市役所担当者、家族代表、利用者及び施設側から代表取締役、施設長、管理者が参加し、施設の概要や施設の近況、行事予定と結果、自己評価と外部評価結果等を説明、報告している。また、民生委員や区長からは、地域の行事への参加呼びかけなどがあり、いつも活発な意見交換の場となっている。出された意見を施設運営に反映している。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族への連絡は、面会時及び施設の便り、施設が独自に考えた個人別のジョイニュースレター等により、本人の健康状態や施設での近況、金銭管理等を報告し、連携を密にしている。またその都度でできた意見や苦情等は、月2回行っている職員全員のミーティングで話し合い、運営に活かせるものから順に実施している。更に情報交換ができる意見交換ノートを取入れを考えている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域住民との交流については、散歩や近くの公園でのふれあいや、地域の行事(保育園まつり、宮掃除等)への参加等で図っている。また、最近、民生委員及び区長の働きかけで老人クラブとの交流が出来、ふれあいサロンへの参加など、一層地域住民との行き来ができています。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ジョイの理念は、施設の代表者と施設長が創設時に自分達の施設はかくありたいという思いを込めて作成したもので、人と人のふれあいを基調に、お互いがともに補い合い、支えあう心と行動を分かり易い文言で表している。	○	施設長や管理者は、地域密着型サービスを理解するとともに、地域の行事に積極的に参加したり、小学校の運動会に出場したり、老人クラブとふれあいサロン等の交流を始めたりと、地域住民との交流の幅を拡大している。地域住民との交流を踏まえた理念の追加等を検討されたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関に大きな文字と分かりやすい文章で理念が掲示しており、職員は勿論、施設を訪れる家族や地域の住民等、誰にでも分かるものになっている。また、施設長や管理者は、会議時やみんなが集まる機会を捕らえて、理念を唱えており、職員全員が理念に沿った支援を実施している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くの公園等に散歩するときに必ずあいさつを交わし、自治会の行事(神社の清掃等)に参加している。また、保育園祭りに招かれたり、小学校の運動会の競技に利用者が出場している。更に、最近では地域の老人クラブのふれあいサロン等で交流が出来、地域住民との交流が盛んである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価で自分達の気付いた点、また、外部評価結果で改善を指摘された項目を改善シートにして取り組んでいる。今回、地域密着型サービスに変わったことにより、評価のねらいや活用方法を職員全員で勉強をしている。その上で、自己評価を皆で話し合い、取り組みの事実を確認するとともに、施設長と管理者が取りまとめて自己評価を作成している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回、定期的で開催している。施設から、概要や近況、行事予定等を説明し、また、自己評価を項目別に報告し、運営推進委員にその項目の現場等の確認もしてもらっている。民生委員や地元区長から出た質問や意見を記録に残して、職員で話し合い、施設運営に反映させている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	開設時から、市との連携を密にしている。現在でも、月に一度以上、市役所を訪問して情報の交換をしている。また、施設の便りを市役所及び関係各所に配布している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者一人ひとりに「ジョイニュースレター」を2ヶ月に1回のペースで発行している。内容は本人の生活の様子やケアプラン、健康状態等で、担当者やケアマネジャーの一言も載せており、家族に喜ばれている。施設の便りも家族に配布している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時の説明の中で、意見や不満、苦情等の受付について分かりやすく説明をしている。また、家族の面会時を捕らえて職員が意見等の聞き出しを行なっている。家の遠い家族には電話や連絡ノートで意見や質問等の情報を収集している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	施設長や管理者は、利用者や家族との信頼関係がもっとも重要であることを認識しており、職員ができる限り長く働き続けてもらう環境づくりをしている。現在、職員の交代は少なく、利用者や家族が安心して、日々の暮らしを楽しんでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の配置に余裕を持っており、認知症介護実践者研修や学習会に順番で参加している。また、施設長や管理者は、サービスの質の向上には職員全員のレベルアップが欠かせないことを理解しており、事業所外の研修には、なるべく多くの職員を計画的に受講させている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者や施設長は、利害関係を超えてより良いサービスのため切磋琢磨する精神を持っており、年に数回、他事業所を訪問見学している。また、市内グループホーム事業者の集まりにも積極的に参加し、意見交換や情報の収集をして、施設運営に反映させている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居を希望する本人や家族に、施設訪問をしてもらって、利用者やスタッフの中に入ってお茶を一緒に飲んだり、レクリエーションを楽しんだりして施設の様子を見て感じてもらうようにしている。直ぐに入居したい人にも、馴染みができるような環境を備え、安心して入居できるように心掛けている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員全員が、利用者と家族であるという認識を常に持っており、施設内は非常に家庭的である。一緒に食事を楽しんだり、お茶を飲んだり、テレビの感想を話し合ったりしている。また、家事や園芸などのコツを聞いたり、日々の生活を一緒に楽しんでいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月2回行うミーティングの中で、利用者本人がどのような暮らしを望んでいるのか、何をやりたいのかを話し合い、日々の暮らしの支援に活かしている。また、職員が、利用者や家族との話し合いで意向の把握に努めている。言葉での表現が上手にできない人に対しては、目の動きやボツンと発した言動から汲み取るように心掛けている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者が自分らしく暮らせるよう、本人や家族から希望や要望を聞き、また、日々の生活から気付いたことやミーティングでの意見を取り入れ、その人に合った介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	原則として3ヶ月に1回の見直しを行っている。見直しについては、月2回職員全員で行うミーティングで話し合い、体調の変化や本人、家族の希望を確認した上で、臨機応変に対応し、その人の実情に即した計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の希望により里帰りやお墓参りの支援をしている。また、容態の悪化や骨折等で入院した利用者に対して、お見舞いは常時行なっている。更に早期退院に向け、家族と相談しながら病院と話し合い、家族に安心感を与えている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、施設の協力医や歯科診療等について分かりやすく説明をして納得をもらっている。しかし、今までのかかりつけ医を希望する場合は、家族の送り迎えを原則に受け付けている。現在は、入居者全員が施設の協力医を利用している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合、早い段階で本人や家族と話し合い、相談しながら、協力医の意見を踏まえて対応している。現在、終末期に向けての方針を検討中であるが、課題は沢山ある。	○	ターミナルは、本人や家族との信頼関係の上で行なわれるものである。また、看取り支援指針があることで、本人や家族が安心して入居できる。 ターミナル実施には、協力医との連携やスタッフの体制、家族への説明と同意等、まだまだ課題が多いと思われるが、看取り支援指針の作成に向け、協議、検討されることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	評価で指摘があった排泄や入浴時の羞恥心に関することについては、カーテンをつける等の改善をしている。利用者に対して、ことば掛けや接し方は、本人を尊重しており、優しく丁寧である。また、個人記録ファイルは、必要のないときは見えないところに保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースや気持ちを尊重し、その日をどのように暮らしたいか等を聞いて、本人の健康状態を踏まえその人に合った支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設の全員が食堂に集まり、食事前の体操を行い、食事は利用者と職員と一緒に、ゆっくり時間をかけて食べている。全員が食事を楽しみ、会話が弾み、笑い声も聞かれた。 食事後、職員の指示がなくても、元気な人達が、体の自由がきかない人の分まで後片付けをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者にとって楽しみの1つであり、これまで昼食後に決められていた入浴時間を、午前中のお茶の後から夕食前まで幅を持たせた。このことにより、利用者がゆっくり、ゆったりと寛ぐことが出来ている。また、1人介助までの方は、希望があれば毎日、入浴を楽しめる体制をとっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は、利用者の生活歴や趣味等を把握しており、本人が望むことの支援をしている。園芸や食事の準備、後片付け、洗濯物の取り入れ、音楽療法、ちぎり絵等本人が楽しんでやる役割を支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は、テラスで多くの時間を過ごしたり、近くの公園や神社への散歩、喫茶店に出かけるなど、部屋に閉じこもらないよう支援をしている。また、近くに大型のショッピングモールが出来たので、買い物や外食等、外出の範囲が広がっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアの実践については、ミーティングで話し合い、職員同士で常に確認し合っている。 施設は、日中は鍵をかけておらず、各居室には鍵がない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練のマニュアルや非常時の連絡簿が整備されており、それに基づいた避難訓練を、消防署の協力により実施している。また、運営推進会議の中で地元区長に、地域住民の訓練参加を呼びかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録は、水分摂取量や食事の量について、一週間分の推移が分かるものになっている。厨房は栄養士の資格を持つ人がおり、利用者の健康状態や日々の変化を適確に捉えて、その人に合った、栄養バランスの取れた食事を提供をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内は、廊下の天井が高く、天窓があり明るいものとなっている。また、隅々まで清潔に保たれ、工場が近くにあるにも関わらず、静かである。行事の写真や利用者の作品などが飾られ、家庭的な居心地の良い雰囲気を作っている。広い畳の間があり、また、ソファも2箇所を設置してあるので、利用者がゆったり寛ぐことができる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、シンプルな造りだが、利用者が馴染みの調度品等を持ち込んでおり、各人の個性が活かされた配置や飾り付けがされて、居心地の良い雰囲気となっている。		